



第 29 号  
2013.6 発行

巻頭言

理事長 児島 百代

新しい年度を迎え各団それぞれの計画に胸をふくらませておられる事と存じます。

一月の連盟総会でお話しましたように、来年はいよいよ「鎌倉合唱連盟創立五十年」となります。

思えば、現在もお元気に指揮しておられる長畑妙先生、前理事長の故養田良子先生のご尽力でそれまで鎌倉合唱祭に何となくまとまって出演していた十五団体をまとめていただき、一九六五年鎌倉合唱連盟として正式に発足出来たわけです。私は当時まだ三十歳そこそこの若い教師で、日曜日に指導していたゴロリア少年合唱団の代表者としてこの連盟に名を連ねていました。来年創立五十年を迎えるなんて時の経つ早さに驚いていきます。その間、三十五年に私が理事長をお引き受けし、四十年には「四十年のあゆみ」という記念誌も発行しました。

さてそこでこの五十年にあたり合唱連盟の一人お一人の皆様には是非ご協力をお願いしたいのです。記念行事の企画にも参加していただきたいし、行事が決定しましたら全員が何らかの形で積極的にご参加下さいますよう心からお願いたします。

なんでも歌える幸せ

副理事長 佐藤 ゆり

昨年十二月に福島から鎌倉に避難して来ている方々の集まりが高徳院(大仏様)であった。皆で集まり、楽しくお昼ご飯を食べようと、言う企画で、その中でみんなで歌を歌いたいとご要望があり、キーボードを持って伺うことになった。避難者の支援をしているボランティアの方と前もって打ち合わせがあり、鎌倉に来て居る方々の現状を伺うことができた。なにも解らずに言われるがままに手荷物だけ持って逃げてきて、二年近く経ち、帰れる目途も立たず、本当に皆が疲れ果てて、心に空いた穴をどう

することもできないということだった。「故郷なんて歌えませぬね。」と私が言うと「そうですすね。あれは帰る所のある人の歌ですから。」春の歌を歌おうと思うと3月が思い出される。ひな祭りもだめ。桜もだめ。山は放射能。海は津波。文部省唱歌も童謡も日本の歌は四季折々の自然や行事を歌い込んだ曲が多い。するとどれも失った物を思い出してしまふ。何と哀しいことだろう。

皆さまの傷に触れぬよう、歌って楽しい時を過ごしていただけるように選曲するのはとても難しかった。そして当日。「とても楽しかった。お話を面白かった。」と皆様おっしゃってくださったが、辛い気持ちになった方はいらつしやらなかつただろうか。

あの歌もこの歌も懐かしく楽しく歌える私たちの幸せを改めて深く感じた。

五十年に向けて

副理事長 丸山 孝之

平成二十四年の鎌倉合唱連盟は加盟団体五十一、会員総数千四百四十五名の大所帯でありましたが、今年には更に一団体が加盟され五十二団体千四百六十三名となりました。

昨年は七月二十九日に第四十八回定期演奏会を講師の先生お二人を招聘して開催し、講評を頂いたほか出演した会員や来場された一般市民の方々にも講評をお願いするなど有意義な演奏会となりました。

九月二十二日には鎌倉市民文化祭オーブニングイベントに参加し合唱教室「皆さんで歌いましょう」を主催しました。

十一月四日に開催された鎌倉市民合唱祭には三十七団体七百八十一名が出演、合唱連盟加盟団体以外の一般参加も二団体あり市民文化祭を盛り上げる役割を果たしたと自負しております。

平成二十五年度の事業計画として、七月六日の第四十九回定期演奏会と十月二十日に鎌倉市民合唱祭を予定しております。

一年後の平成二十六年には合唱連盟創立五十周年を迎えると共に、第五十回定期演奏会の開催を控えており、さまざまな記念行事を実施すべく準備を進めております。

今春には理事以外の方々も参加して頂き記念事業実行委員会を発足させました。

昨年五十周年を迎えられた鎌倉交響楽団にもご協力をお願いする

と共に、加盟各団のご協力を得て、又皆さんのご意見等も参考にしながら記念事業を成功させるよう努力する所存です。

## 鎌倉市民合唱祭

### ミニ講評

北鎌倉女子学園 コーラス部

昨年十一月に出演させていただいた鎌倉市民合唱祭では、いろいろな合唱団の方から様々なご講評をいただき大変勉強になりました。ご講評の多くが「声に若さを感じた」という内容でした。現在、中学一年生から高校二年生が所属する私達コーラス部の悩みは声が幼いということと、特に声の表現力が足りないといつも先生から言われています。講評にあるように、これから練習を重ねて大人のような深く美しい歌声になれるよう努力したいと思います。他には「元気で力強い歌をありがとう」「ハーモニイが良かった」という講評もいただきました。この日は高三の先輩方が引退した後、初めての舞台だったので、いい演奏が出来るか不安で一杯でした。これらの講評を読み、嬉しさと共に少し自信を持つことも出来ました。

他の団体の講評には、ハーモニイの美しさや衣装の素晴らしさを

書きました。講評を書くというところで今まで以上にたくさんの合唱団の演奏を集中して聴き、とても勉強になりました。講評を通して学んだことを、今後の練習に生かし、これからも美しいハーモニイを目指していきたいと思えます。

## 市民合唱祭について

夢 角 浩美

二十余年前四名で活動をスタートし、その後八名になった時に、初めて市民合唱祭に参加しました。あの大きなステージに立てた時は、団体名と同じように夢のようでした。

それから少しづつ団員も増えて、毎年の参加を目標に今日に至りました。合唱祭当日の選曲は、書類提出後慌てて猛練習をしたり、少人数の中不相应にも難曲にチャレンジし、沢山の拍手を頂いた事は忘れられない嬉しい思い出です。

昨年は、思いがけずミニ講評を沢山戴いて有難く存じました。温かい気持や、応援して下さいという声が伝わってまいりました。団員の笑顔と興奮の中で、拝読しました。具体的な配列等の御意見も、大変参考になりました。

また新しい目標に向かう力につながり、今後の励みとなつて大いに

士気が上がりました。

幼少から若人、シニア誰でも集める合唱の輪を、心豊かに大きく楽しく広げてゆきたいものです。ちよつとお洒落をして背筋を伸ばしステージに立つ、日常生活にはない緊張感を今後も保ち続けたいと思いました。

## 円覚寺コンサートについて

クール百音 荒井 美乃

去る二〇一二年五月二日、緑溢れる円覚寺にてチャリティーコンサートを行いました。大震災後、クール百音にできることは何かと団員一同思索の末、定期演奏会に代わり被災された方々へ少しでも想いを届けられたらと願いを込め、円覚寺の御協力の元、この演奏会を開催する運びとなりました。

荘厳な空気に包まれるなか、初めに「ふるさとの四季」「般若心経・考/I・II」を演奏し、震災後改めて気付かされた故郷・日本の美しさ、そして心から祈りを捧げるこの大切さを、お客様にもお感じいただけたのではないかと思います。後半は児島百代先生の詩、山本繁司先生作曲による「三つの心の詩」を初演しました。難曲であったためどう表現したら良いのか非常に苦労しましたが、詩

を歌うということに集中した結果、何とか独特なハーモニイが織り成す児島先生の詩の世界を歌い上げることが出来ました。最後に「歌おうNIPPON」プロジェクトより数曲演奏し、和かな音楽、響きに心が温まりましたと沢山のお声をいただきました。

収益の一部は日本赤十字社へ寄付いたしました。これからも私達にできることを考え、日々活動して参ります。

## 演奏を終えて

由比コーラス 津々良悦子

私達は平成二十四年五月二十七日(日)に鎌倉生涯学習センターホールに於いて第二十五回定期演奏会を亀田真由美先生ご指導のもと坂元陽子先生ピアノ伴奏で開催する事ができました。アヴェ・マリア女声合唱組曲「生命(いのち)うるわし」懐かしき四季をうたうタンゴ・デル・フロール五曲を披露致しました。「生命うるわし」はかなりの難曲でしたが詩情の奥深さを感じつつ定演にこぎつきました。①白い表紙②創世記③初節句④一枚の絵がある⑤母⑥銀杏からなり人がこの世に誕生し終わりを迎えるその時々暖かい優しいまなざしをむけて丁寧な瞬間

をみつめている想いが伝わってくる詩です。吉野弘さんのまなざしが沢山詰められた詩です。私達は最初この詩は何だろう？と不思議でした。だんだん歌っているうちに作者の心のうちが少しづつわかるようになり⑤母の時は自分の母親の最後を思い出し涙で歌えなくなった人も何人かおりました。私達は赤いドレスを新調し華やかで若くなつた気分です舞台上立つ事が出来ました。聴きに來て下さった方々に感謝の気持ち一杯です。私達にとつてこの曲は一生の宝物です。



## 創立20周年コンサートについて

女声合唱団「松」 小山 節子

私達の女声合唱団「松」はいよいよ二十周年目を迎えます。好きな事の積み重ねは年月を忘れさせ、時の流れの早さに驚くばかりです。創団以來ずっと松村先生の豊かな感性と高い音楽性に魅かれて歌い続けてきた私達にも、二十年の年月が加わりました。気がつけば人生の冬路を歩いているではありませんか。体調が優れない時でもレッスンの日がくると毅然となるのが不思議です。私にとつてコーラスは生活の一部であり、至福の時間だからでしょう。創団当時は音取りも、しどろもどろするばかりでした。ある日練習中に先生はおっしゃいました。「専門学校を出ていてもお休みする人より音が取れなくても毎回練習に出てくる人の方が上手になりますよ…」と。「これって私のこと？」嬉しさが込み上げたのを今でも忘れません。先生の惜しめない根気のお蔭で私達も年ごとに前に向つていくような気がします。素晴らしいピアノ、発声の先生に恵まれて代表を中心に明るく活き活きと練習に取り組んでいます。新春に催します記念コンサートではなつか

しい日本の名歌抄をア・カペラで歌つたり新しい曲も取り入れて歌わせて頂きます。少しでも皆様のお心が柔らかく楽しんで頂けたら嬉しく存じます。

## 新規加盟合唱団の紹介

### 合唱連盟に加盟して

深沢混声合唱団 竹川 道子

発足十六年になる、深沢学習センターを拠点に活動する混声のハーモニーを楽しもうという合唱団です。指導者は佐野美登里先生、ピアノ伴奏は澤田史子先生。

佐野先生が指導されていた深沢中学PTAの合唱グループが母体になり、歴史を刻んできました。

団員は鎌倉市を中心に現在十二人。ときどきメンバーの入れ替わりがありますが、発足時からのメンバーもいて、強い結束力のもと家族のような雰囲気活動しています。練習は深沢学習センターで、毎週金曜日の夜六時半～八時半です。

歌う曲は歌曲、叙情歌、童謡、外国の歌など幅広く、一年ごとに佐野先生が選んで下さるテーマ曲三つ四つを練習し、秋の学習センターフェスティバルで発表して

きました。

団員の最高齢は八十八歳。五十歳代の壮年、そして中高年者が渾然一体になり、毎週の練習を全身で楽しみながら曲の習得に励んでいます。生涯現役を目指す合唱団の心意気を「鎌倉合唱連盟」で發揮したいと一同張りきっています。混声四部少人数アンサンブル

アンサンブルコーラージュ 高島 一

二〇〇六年コーラス愛好の女性五名がピアノスト坂元陽子先生の協力を頂き、楽しく歌おうと集まったのがきっかけでした。

翌年、最も基盤的な構成の混声四部合唱団を目指して男性の参加をえ、少人数アンサンブルとして発足しました。馬場幸子先生のご指導の下、主にボランテイアの演奏活動を行ってきましたが、二〇一一年浦畑博美先生を迎え、市民合唱祭への出演、翌年には連盟加盟を果し、連盟の定演にも参加させて頂きました。今や今秋のファーストコンサート開催実現を目指しています。

団名のコーラージュは、二〇〇六年神奈川国際音楽芸術祭に招請された弦楽アンサンブルで、ウィーンフィルのメンバーにより編成されたヴィエナコーラージュに由来し

ています。絵画で絵具だけでなく色々な要素の芸術的な融合を意味しています。浦畑、坂元両先生の幅広いレパートリーのなか、美しいハーモニー、楽しく心地よいメロディーを求めて、多様なジャンルの歌曲を歌っています。

毎週土曜日午後二時～四時で原則三回／月の練習をしています。現在、メンバー十九名です。練習後のお茶会も悪くありません。

### 平成二十五年度 事業計画について

平成二十五年度年次総会が一月三十日に開催され、平成二十四年度の事業報告、会計報告及び平成二十五年度の事業計画、会計予算が全員賛成で可決されました。本号ではその内の平成二十五年度事業計画の一部をお知らせします。各団の活動計画の参考になれば幸いです。

五月十四日(火) 第四十九八回

定期演奏会の為の代表者会、出演順の決定他

六月十九日(水) 第四十九回定期演奏会の準備会、参加費納入、機関紙「えっせんす」第二十九号発行予定

七月六日(土) 第四十九回定期演奏会・鎌倉芸術館大ホール。講師を依頼する

九月初旬 第五十五回市民合唱祭の為の代表者会、出演順の決定

十月中旬 第五十五回市民合唱祭の準備会・参加費納入

十月二十日(日) 第五十五回鎌倉市民合唱祭・芸術館大ホール

二〇二二年十二月末現在の加盟団体数は五十二団体、会員総数は一四六三名でした。

### 加盟各団の活動状況

鎌倉さくらコーラス

平成二十五年四月十三日

第一生命ホール

松浦ゆかり六団体合同

MY CONCERT

クール百音

平成二十五年六月二日

横浜みなとみらい小ホール

女声コーラス「青い花」

平成二十五年六月八日

鎌倉生涯学習センター

合唱の日コンサート

女声合唱団ミモザの会

平成二十五年七月十五日

鎌倉芸術館大ホール

第八回定期演奏会

ジュニア合唱団なぎさ道

鎌倉芸術館大ホール

第十回定期演奏会

平成二十五年十一月二十四日

鎌倉芸術館大ホール

白いうた青いうたフェスティバル in 鎌倉

大船混声合唱団

平成二十五年九月二十二日

鎌倉芸術館大ホール

第十四回定期演奏会

女声合唱団ぶどうの会

平成二十五年十月六日

なぎさホール

第八回定期演奏会

男声合唱団牧神

平成二十五年十月十九日

鎌倉芸術館小ホール

第二回定期演奏会

鎌倉湖畔コーラス

平成二十五年十一月十六日

鎌倉芸術館小ホール

男声合唱団エルダー泉

平成二十六年一月十二日

鎌倉芸術館小ホール

定期演奏会

女声合唱団「松」

平成二十六年一月十八日

鎌倉芸術館大ホール

第九回定期演奏会

女声合唱団かまくらの風

なぎさホール

平成二十六年三月八日

第八回定期演奏会

混声合唱団ムジカおさらぎ

鎌倉芸術館大ホール

平成二十六年四月

第二十六回定期演奏会

由比コーラス

鎌倉芸術館

平成二十六年五月

第二十五回定期演奏会

### 編集後記

機関誌「えっせんす」第二十九号をお届けします。震災から既に二年が経とうとしているのに、遅々として進まぬ復興への道のり、責任を取り沙汰されるのを恐れているのか、いったいいつになったら結論を誰がだすのでしょうか、いらは解消されない。政府は本当に被災者の事を真剣に考えているのでしょうか？ 来年の桜の季節には、もう少しし心穏やかな編集後記が書けますよう。

細村 和子

えっせんす 第二十九号

発行責任者 鎌倉合唱連盟理事長

発行 児島 百代

印刷所 F・フタバヤ